

## アンケート結果にみる授業の成果と課題（平成30年度）

教育臨床講座・山田 誠

### 1. 授業の概要

#### （1）受講者

本授業「子どもと大人の学びの支援」は、学校教育教員養成課程初等教育コース小学校サブコースのコース科目（選択科目）である。登録学生は13名である。内訳は、2年生が6名（中等教育コース生1名を含む）、3年生が7名であった。

#### （2）授業の目的・到達目標

本授業の目的は、まず、生涯学習を支援するための基礎的知識を身につけ、とりわけ大人（成人期）の学びの支援について、子どもの学びの支援と対比させ、関連付けながら理解することである。また、各教育部門の取り組みにおいて、子ども期から成人期へと、生涯学習者としての成長をどのように支援することができるかを考えることができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の4項目である。

1) 生涯学習、生涯教育に関する基礎概念、及び生涯学習関連施策の動向を把握し、説明できる。

2) 学習支援の基礎理論及びアンドラゴジーの原理について理解し、説明できる。

3) 生涯学習者としての成長や自己主導的学習の支援について理解し、説明できる。

4) 学校教育や社会教育等、各教育部門の特質を把握し、各部門において生涯学習者としての成長の支援にどのように取り組まれるべきかを主体的に考え、論述することができる。

#### （3）関連するディプロマ・ポリシー（DP）

本学部の卒業時の到達目標（DP）のうち関連する項目は、「教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」を想定している。

#### （4）授業の方法・形態

基本的には教科書・配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、映像教材の視聴、発問や受講者の意見発表、受講者との

対話を取り入れるようにしている。加えて、筆者は、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとしてコメント（振り返り）カードを用いている。また、授業時間外に教科書を読んで学んだことや図書館等を利用した自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励するとともに、その記述内容も評価の対象とすることを伝えている。

### 2. アンケート結果

最終15回目の授業（まとめと評価）のなかで、期末試験の前に、授業全体を振り返っての、受講者による授業評価アンケートを実施した。アンケートは、無記名で、4段階評価形式の質問が4項目9問と自由記述形式の質問が2問である。出席者12名全員から回答を得られた。以下には、アンケート結果のうち授業全般に関するものを示す。

#### 【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

4. そう思う：2名（16.7%）

3. まあそう思う：9名（75.0%）

2. あまりそう思わない：1名（8.3%）

1. そう思わない：0名（—）

「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的回答の割合が91.7%であった。前年度の同じ質問に対する肯定的回答は92.9%で、若干数値が下がった。なお、前年度の数値は、合同開講した「生涯学習論」「成人期学習支援論」と合算したものである（以下同様）。

#### 【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方はわかりやすかった。

4. そう思う：2名（16.7%）

3. まあそう思う：10名（83.3%）

2. あまりそう思わない：0名（—）

1. そう思わない：0名（—）

2-2.〔教材等の使用〕教科書、プリント、ビデオ、黒板（ホワイトボード）等の使い方は効果的だった。

4. そう思う：4名（33.3%）
3. まあそう思う：6名（50.0%）
2. あまりそう思わない：2名（16.7%）
1. そう思わない：0名（-）

2-3.〔コメントカード〕毎回コメントカードを記述することが、授業内容について振り返るとともに、理解や考えを深めるのに役立った。

4. そう思う：4名（33.3%）
3. まあそう思う：6名（50.0%）
2. あまりそう思わない：1名（8.3%）
1. そう思わない：1名（8.3%）

授業方法に関する上記3つの質問に対する肯定的回答は、順に100.0%、83.3%、83.3%である。前年度の同様の質問に対する肯定的回答は、順に85.7%、78.6%、78.6%であり、今回は前年度に比べて向上している。

#### 【授業全体に関する質問】

3-1.〔得るものがあったか〕この授業により、考えが培われたり、得るところがあった。

4. そう思う：6名（50.0%）
3. まあそう思う：6名（50.0%）
2. あまりそう思わない：0名（-）
1. そう思わない：0名（-）

3-2.〔目的・目標達成度〕この授業の目的・目標は達成された。

4. そう思う：4名（33.3%）
3. まあそう思う：8名（66.7%）
2. あまりそう思わない：0名（-）
1. そう思わない：0名（-）

3-3.〔満足度〕この授業は全体として満足のものだった。

4. そう思う：3名（25.0%）
3. まあそう思う：9名（75.0%）
2. あまりそう思わない：0名（-）
1. そう思わない：0名（-）

授業全体に関する評価について、上の3つの質問に対する肯定的回答は、いずれも100.0%である。前年度の同じ質問に対する肯定的回答は、順に85.7%、100.0%、78.6%であり、得るものがあったか及び満足度にお

いて、向上しているようである。

#### 【自由記述】（抜粋）

1)この授業を通して学ぶことができたこと、考えが培われたことは、どのようなことですか。

・生涯学習や社会教育についての知識・実態が理解できたこと。

・教員を目指すにあたって、学校の授業だけでなく、他との連携についても考えていく必要があると思った。

・生涯学習や生涯教育の歴史を学ぶことは、現代の学習ではどのようなことが課題として残っているか、教育者としてはどのようにその課題解決に関わればいいのかを考え、自分が教育者になる上で明らかに視野が広がったと思う。

・これから社会人になり生活していくなかでも様々な場面で学びのチャンスがあるということ意識しながら生きていくことで生涯学習がよりよいものになっていくと感じた。教育のしかたを工夫して学校・家庭・地域がうまく連携していかなければならないと学んだ。

・生涯学習について、学校が果たす役割について学ぶことができたので、これから教員になった時にも考え続けていきたいと思った。

2)授業でよかった点、あるいは、こう改善するとよいという指摘など、自由に記述してください。

・学校教育とは違う視点で教育について考えられた。

・生涯学習や学社連携について知ること、教育現場での課題を知る機会になった。

・大事なところは色をつけて書くなどの配慮がなされていたのがよかった点です。

・資料として観た映像が分かりやすく参考になった点。

・先生が度々まとめてくれたので、2回学習したように理解を深めることができた。

・良かった点は、図などを用いて社会教育とその他の教育との関係性などを分かりやすく説明していった点です。

・PTAを学ぶとき、リアルな意見が載った資料がもたらえたことで問題を身近に考えるこ

とができて良かった。

- ・毎回の授業で、今日学ぶ内容のキーワードを提示してほしい。
- ・プリントで大事な部分が穴抜きだと良いと思った。

### 3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

#### (1) 本授業について

こども期の学習、成人期の学習、そしてそれらを含む生涯学習は、家庭や学校・大学、地域社会や職場等において展開されている。生涯学習及びその支援の取組において、地域社会は主要な舞台のひとつである。よって、地域社会における学習活動及び学習支援の活動は、本授業で取り上げる重要な事象である。本授業の内容は、必ずしも（特定の）地域社会に焦点化して構成されてはいないが、筆者が、地域の教育活動や教育行政関係の委員会、あるいは社会教育主事講習等に関わらせていただくなかで学ぶことができたことを、本授業にも活かすことは大切にしている。

本授業では、子どもの学習と大人の学習の対比、また両者の関連性とスムーズな移行のあり方の検討を含めて、生涯学習とその支援に関する理論及び実際について考察する。その際、①国際的視点から動向を追うこともあれば、②国レベルでの取組を把握しようとする部分もあり、また、③地域社会や家庭といった、より身近な生活圏内におけることとしての議論となる場面もある。そして、①～③のような（あるいは、個人、集団、社会といった）異なる視点やレベルで検討するとともに、それらが総合されることにより、授業テーマに関する考察や理解が深められることを目指している。言い換えれば、①や②の内容を③の視点から問い直すことが大切であるし、③の議論をより現実的、建設的なものにするためには、①や②から得られた知識・理解、問題意識が必要とされると考えている。しかし、実際のところ、授業の構成も展開も未熟であり、時間不足にもなりがちで、工夫・改善の余地がある。

なお、今年度も、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」という観点から授業を計画し直したり、シラバスを変更したりするには至れなかった。だが、今年度も引き続き、地域の教育・ボランティア活動の実施や関連

イベントの開催等において、学生が参加対象となっており、学生にとって有意義な経験や学びの機会になりうると思われるものについては、学内各所の掲示やチラシ配布、学生・院生への声掛けをし、また、授業中に紹介・参加呼び掛けを行うなど、できるだけ協力させていただいた。授業時間を使って紹介する場合、参加者募集のための情報提供にとどまらず、地域社会における取組、活動事例として学習の一環となるように配慮している。

#### (2) 地域（教育）活動への案内

今回、「地域教育中予ブロック集会」について紹介したところ、本授業の受講者から3名の参加申込があった。そこで、集会の様子、参加して考えたこと、学んだこと等についての小レポートを提出してくれるよう求めた。

集会では、高齢者の皆さんと学生との協働プロジェクト、防災リーダークラブ、そして他大学の「社会教育ボランティア実習」の3つの実践発表に続き、実践発表をふまえたワークショップ（グループでの語り合いと全体での共有）が企画されていた。

提出されたレポートでは、「仲間づくり、特に若者を集めるのが難しく、どのような団体でも人材育成がプロジェクト継続の鍵になっていることがわかった。」「『「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」するために』をテーマに、若者による継承について話し合い、興味・関心を引ける熱意をどれだけ伝えることができるかがポイントになってくると感じた。活動を続けていくために、団体同士での活動をしていく機会を作っていくことが、それぞれの活動をやりやすく、広げていくことができると思った。そうすることで『つながり』が形成され、様々な情報も得ることができる。」「教育委員会の人や現役の小学校教員など、普段はなかなか関わることの出来ない方々とも交流する事ができ、とても良い経験が出来ました。」といった報告があった。なお、事後に、集会の開催事務局関係者にお目に掛かった際、参加した上記の受講者が、ワークショップで大変活躍したことをお伝えいただいた。

#### (3) アンケートから

前年度同様、最終回に実施した授業評価アンケートにおいて、「地域社会における教育

活動についての関心・理解に関する質問」という項目を立て、2問設定した。

【地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問】

4-1. [理解の進展] この授業を通して、社会教育活動（公民館、博物館（学芸員）、社会教育主事、PTA等）をはじめ、地域の教育・ボランティア活動（学校教育支援、家庭教育支援、学校・家庭・地域の連携・協力等）についての理解が深まった。

4. そう思う：7名（58.3%）
3. まあそう思う：5名（41.7%）
2. あまりそう思わない：0名（-）
1. そう思わない：0名（-）

肯定的回答が100%と好ましい結果であった。昨年度も同様の質問に対する肯定的回答は100.0%であったが、その内訳は、「そう思う」35.7%、「まあそう思う」64.3%であったので、今年度の方がよくなっている。

4-2. [情報の提供] この授業で提供された、地域の教育・ボランティア活動や関連イベント（地域教育中予ブロック集会等）に関する情報は、興味・関心を持てた。

4. そう思う：3名（25.0%）
3. まあそう思う：9名（75.0%）
2. あまりそう思わない：0名（-）
1. そう思わない：0名（-）

肯定的回答が100.0%であった。昨年度の同様の質問に対する肯定的回答は78.6%であり、今回向上している。

#### 4. 総括

アンケートの結果については、概ね肯定的な評価が得られ、前年度との比較においても、向上した項目が多くみられた。今後は、「そう思う」の比率をより高めていくことが必要である。引き続き、授業改善に努めていきたい。

一方、授業内容に関連した地域（教育）活動の紹介、参加の呼びかけについては、受講者のなかから複数の参加者が得られた。さまざまな地域活動の取組において、若者の参加を拡大することは大きな課題のひとつであり、大学生の参加者を増やすことにわずかながら

も貢献できたことは、喜ばしいことである。今回、参加した受講者には事後に小レポートの提出を求めることにした。これにより参加した受講者の負担は増えるものの、参加意識・意欲、さらに最終的な成果にも、何らかのプラスの影響を与えることもできたのではないか。事後の報告からは、参加者にとっての貴重な経験となり、確かな成果を手に行っていることがうかがえた。地域教育に関する前述の集会を企画・実施され、受講者を受け入れてくださった皆様に、感謝の意を表したい。